令和５年度　第９回香美市教育振興基本計画検討委員会　会議録

日　　時：平成６年３月１３日（水）午後６時
場　　所：香美市役所３階会議室
委　　員：中村直人、福田直史、内田純一、市原庸寛、高橋信司、上村安和、植村昌史、山下佐智、
　　楮佐古理枝、中山美香、尾形千晶、山本直子、國光　淳、上島　潤
欠席委員：な　し
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：福石賢一、浜田教育委員
事 務 局：白川教育長、中山教育次長、一圓教育振興課長、黍原生涯学習振興課長、
　　信﨑教育研究所長、濱田推進官、田村対策監、小串指導主任、李指導主事、
　　前田学校教育班長、大峯総務係長、小松幼保支援班長、
　　山重香美市立図書館統括官、影山スポーツ班長、宇根文化・地域教育班長
会 次 第
　１．開会
　２．議題
　　①令和５年度の取組と内部評価
　　②次期教育振興基本計画原案・概要版
　　③その他
　３．閉会

（中山教育次長）
　定刻となりましたので、ただ今から、令和５年度第９回香美市教育振興基本計画検討委員会を開催いたします。
　委員の皆様方におかれましては、大変お忙しいところご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日は私中山が司会を務めさせていただきます。つたない司会で誠に恐縮でございますけれども、ご容赦願いたいと思います。
　なお、本日の欠席の委員さんはおりません。ただ今國光委員さんにつきましては、後ほどご出席されるということです。ただ今のところ１４名中１３名の委員の方がご出席されておりますので、会議が成立していることを報告しておきます。
　では、開会に当たりまして、白川教育長からご挨拶を申し上げます。

（白川教育長）
　皆様こんばんは。本日は皆様方には何かとご多用の中、第９回香美市教育振興基本計画検討委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。本会議も本日を以って一つの区切りを迎えることとなります。策定に際しましては、まずアンケート調査を行い、子ども達、保護者、市民の皆様からいただいたご意見を大切にしながら、第１期教育振興基本計画後期計画の振り返りと、第２期の教育振興基本計画策定の基本方針の見直しにつきまして、たくさんの貴重なご意見をいただいてきたところでございます。第１期教育振興基本計画の成果を引継ぎ、急速に変化し続ける社会に柔

軟に対応出来る資質・能力を身に付けることが、第２期教育振興基本計画の大きな目標となりました。第２期教育振興基本計画は、郷土を愛し、探究的に学び、未来を創る人づくりを基本理念とし、探究、協働、創造の３つの力で、保育園から大学までが揃う町、豊かな自然、歴史、風土、そして子ども達の為には惜しみないご協力をいただける地域の方々といった豊かな資源を生かし、新たなステージを目指して進む道の方向性が、お陰様を持ちまして明確になったというふうに思っております。また、市民一人一人がより良く生きる町として、向上・発展する為の取り組みも具体になりました。これもひとえに本日までご指導、ご助言をいただきました検討委員会の皆様方のご尽力の賜物と深く敬意を表し、心より感謝を申し上げます。また、市民の方々からも貴重なご意見をいただきまして、市民の皆様と共にある香美市の教育のあるべき姿が明確になりましたことにも感謝を申し上げたいと思います。

本日はパブリックコメントをいただいておりましたので、そういったご意見等も含め、更にブラッシュアップを、最後のブラッシュアップをしていただく為のご指導を賜ることが出来れば幸いに存じます。

なお、計画は出来ましても、いかに実行するかということにおきましては、まだまだこれから課題も多いところでございます。今後共どうぞ皆様方のご指導をよろしくお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（中山教育次長）

それでは、早速議事に入りたいと思います。会議の議長につきましては、本委員会設置要綱第６条で委員長が務めると記されておりますので、中村委員長にお願いしたいと思います。中村先生、よろしくお願いします。

（中村委員長）

それでは、早速議題のほうの１、令和５年度の取組と内容評価について、事務局のほうからご説明お願いします。

（事務局説明）

（中村委員長）

ここで質疑、ご意見等を賜りたいと思いますので、よろしくお願いします。

無いようでしたらちょっと私のほうから、不登校対策の取り組みについてちょっとお伺いしたんですが、データを見る限り非常によく頑張られていて、不登校の児童生徒数が下がっているということで、ここ数年の取り組みの中でも、特にここ１、２年評価が出ているんだなというふうに感心してるんですが、現場で鏡野中を含めて幾つかの中学校や小学校を見させていただいてるんですけど、実際に不登校の保護者と先日お話する機会がありまして、２年間ぐらい行ってらっしゃらないということで、ふれんどるーむのほうに行かれてるということでお話をしたら、ＧＩＧＡスクールが始まってもう２年以上経つんですが、未だにパソコンをまだ配ってもらってないっていうふうにおっしゃっていて、どういうことなのと思って、全員に配ってるはずだというふうに思ったんです

が、特に此処でも議論を何度もしてるんですけど、不登校児や発達障害等を抱えている子どもの場合は、割とパソコンでの教育に親和性が高いっていう結果が研究業績でも出ていて、このＧＩＧＡスクールの推進の委員会の視察に行った徳島市の小学校なんかでは、来られてない子どもでも遠隔でなら入れるので、授業にそれで同時にちゃんと入って、コンピュータで、それで、授業を聞いて宿題等も授業とは別に先生が出したものはちゃんと出してくれて､学習に遅れがないような状況で、不登校だけど、学習が継続出来てるっていうような状況を目の当たりにして、あのシステムは非常にいいなということで評価も高かったわけなんですけど、未だにこう配られてないっていう状況をちょっと目の当たりにしたので、何人ぐらいがそういう状況に陥っていて、何故不登校の対策にパソコンに関する教育をここ２年間全く推進されてないのかとか、どうしてこういう状況になっているかっていうことについて、何か分かることがあればご説明いただきたいんですけど。

私、いろんな委員会で推進してきたことと何か、現実が矛盾している状況なんで、ここにも出て来てないので、現状として、ちょっとお教えいただければと思います。

（大峯）

どうでしょう、鏡野中については、持ち帰りも今は進んでいると思ってますが。

（白川教育長）

全体的には出来てないというふうには認識しておりません。個別にこう、それぞれ事情があるということはあろうかと思います。例えば、丁度山田小学校の校長先生がおみえですけれども、お休みをしている子どもさん達は、ＣｈｒｏｍｅＢｏｏｋでいつも授業を見ていますし、比較的進んできたなというふうに思っています。それから、東京指導教室のほうにも鏡野中学校なんかが授業がそこにリモートでちゃんと映るようにして取り組んでおりますし、それから、持ち帰りを希望する親御さん達とは、学校が個別に相談をさせていただいて、準備が整い次第、それを進めていくという状況がございます。

ご家庭の中で子どもさんと親御さんがしっかり話し合いをしていただいて、取り組んでいきましょうという状況になってお渡しをするというふうにはお聞きをしておりますので、そこがまだ進んでいないご家庭があるのか。大栃中なんかももうほとんど、休みの日はもう全員が使いますし、休んでいる子どもさんに対しても、積極的な活用は呼び掛けておりますが、まだまだ万全ではないと思いますので、今後も一人一人丁寧に進めていきたいと思います。

もしお構いなかったら学校の状況をお伝えいただければ、お二人の校長先生もお見えですので、お願いします。

（植村委員）

私は山田小学校なんですけども、令和３年度からＧＩＧＡスクール構想のほうでタブレットが配付されてから、直ぐにその対応をということで、まあ、学校のほうでもいろんな研修を考えて、まずは教員の研修、そして子ども達も操作の研修から始めてやってきました。丁度、これは重なりもあったんですけどもコロナの関係があって、かなりこう自宅待機をしないといけないというお子さんがたくさんいらっしゃいました。去年度なんかはうちの学校、半数ぐらいのお子さんが年間通し

て罹患をしたということで、でも、でも体調が良くなれば、必ずもうそこは、タブレットで全部の時間ではありませんけれども、教室の中でのタブレットのほうに更新授業として必ず担任は開いておりますので、そこに子ども達がその時の状況に応じて、適宜参こう加をするという状態は、令和３年度ぐらいからはもうずっと定着をしております。現在もインフルエンザなんかもありますし、それから、少しこう、何かこう、家庭の用事なんかでお休みをしないといけない時なんかでも、時間があれば子ども達がタブレットに参加するというような、遠隔授業なんていうのは進んでいる傾向、定着をしているのかなと思っています。ただ、少しこう、不登校傾向のお子さんがうちの学校にもいるんですけど、そのお子さんの生活リズムだとか、それからその時の体調によって、この授業の開設はしてるんですけども、子どもが入って来れないっていう状況は、これはもう致し方ないのかなということですが、まあ、保護者の方とは連絡を取り合って、保護者の方も学校のほうに、済みませんが何時間目から参加出来そうですので、タブレットのほう、クラスルームのほうを開いてくださいとかいうふうな、そういった申し込みがあるようなことは今学校のほうは定着しておりますので、全く学校のほうから、貸与とかそういったものをシャットアウトした状態ではないということです。必ず全ての子ども達には、ＧＩＧＡタブレットのほうを配付して毎日持ち帰させているというふうな状況は定着をしておるところです。

（上村委員）

大栃のほうも令和３年度からのＧＩＧＡスタートに合わせて、ゴールデンウイーク前からもう自宅へ持ち帰りから含めて、県下ではそうですけど香美市の中にも結構早く導入をさせていただいたと。その前の年から、大栃はもう自宅でのネット学習のをもう入れていたので、非常にスムーズに、うちはやらせていただいたというところはあります。

本当に学校へこう来にくいとか来れない子ども達も本校はおりますけど、やはり子ども達の学びを少しでも止めていかないというふうは方法の中では、非常に幅が広がってきたというのがもう確かなところかなというふうに思います。

実は今日はうちの卒業式で、なかなか式場へドキドキしながらよう入らん子がおったけど、そういう子もちょっと想定されておったんですけども、直ぐに、いろいろな手を考えていく中に、式場をミートで繋いで外からでも見えるような形っていうものを実は作りました。事情があってちょっと事務さんが中へ入って来れんかった部分もあって、事務さんは外で卒業式の様子を見たんですけど、それと併せて、子ども達も入れない子が出て来た場合はそういうような対応は出来るっていうことの準備もさせていただいて、良い保険になって全員中へ入れたので、とっても良い卒業式にはなったんですけど。まあ、そういうのも日常的に出来る状況にはなっているのかなというふうには思っております。明日の時間割も中学校らあも結構変わるんですけど、時間割も全てもう、紙で伝達することはなりませんので、予定なんかももう全て、もうパソコンの中で確認するとかいうふうな、それから保護者のほうも、予定表とかいうのも全てそこで確認するということになってます。多分、山田小学校さん凄くうまいのは、保護者への子どもを使ってのアピールが凄くうまいんですよね。保護者がよく分かっている、そこの辺りが。そういうところはやっぱり、うちの学校なんかも中学校のほうはまだまだ不十分、もっと周知をせんといかんところがあるかなというふうにも感じたりもしておりますし、子どもの状況によっても、なかなかこう、受け入れにくい子どもも実際

おりますので、その子達にもやっていくんですが、ただ、今までよりも幅が広がったという部分では非常に効果的かなというふうには感じております。
　以上です。

（白川教育長）
　付け足しで済みません。鏡野中学校は本市の中で一番大きい、生徒数も一番多い学校となります。これまでにも教科毎、それから必要がある時という時には持ち帰りをしておりました。けれども２月からは、もう全員が持ち帰りをするというところで、持ち帰りをスタートをしております。まあ、ｅライブラリーが簡単すぎてとか、そういう話もありますけれども、それぞれの教科で活用を、これまでもしていましたけれども一斉に始めたというところでございます。何しろ小学校のほうで子ども達がどんどんもう、ＩＣＴの活用能力が上がるものですから、その子達が中学校へもう上がっていきますから、中学校のほうも待ったなしっていうのがもう現実の問題と言うか、良いほうの課題になって来ていて、比較的進んできたかなというふうには思っております。
　ただまあ、個別のことにつきましては、また別で対応していかなくていけないというところはございます。
　以上です。

（中村委員長）
　ありがとうございました。先進的な事例については、私も推進する側なのでよくお聞きをしてますし、今の山田小と大栃中の場合は実際に幾つか見させてもいただいて、よくやられてると思ってるんですけど。鏡野中学校で２年間ぐらい不登校になってる子が、まだパソコンも配られてなくて、その説明もされてないということで保護者さんから聞いて驚いて、今言われたような事例で、まあ個別なのかもしれませんけど、此処に出てきている、例えば両方合わせると４１が２９になっているんですけど、この人たちの状況はどうなってるかというのが把握出来てるのかなというふうに思っていて、そこを聞きたかったわけなんですね。先進事例に関してはもう、落ち着いて私も見させていただいてますし、今は順調に進んでいるっていうふうに思ってますので、ただその、来れてない子ども達の場合ですね、どういうふうな対応になってるのかっていうことをちょっと、どれぐらい把握されてるかをお聞きしたかっただけなんで。
　まあ、そこが問題だって言ってるんではなくて、もし問題があるのであれば、教育委員会がちゃんと把握されていて、どういうふうな措置を取られているかっていうことや、今後取るっていうことで此処に入っているんなら、全然問題無いというふうに思ってるんですけど。まあ把握されていないのであれば事実としてそういうことがあるので、ちょっと問題かなと思ったので、ご質問させていただきました。
　何か追加の情報は無いですか。

（福田委員）
　今のちょっとだけ自分の中で整理しよったがですけど、要は鏡野中学校は２月から持ち帰りになった？

（白川教育長）
全員。

（福田委員）
じゃあ２月までは、学校に来ない子は家に無いということですね。

（白川教育長）
いや、そんなことは無い。

（福田委員）
ではない。あっ、配っちゅうがは全員に配っちゅう。

（中村委員長）
はずなんですよ。

（白川教育長）
全員に配っていますけれども、ただ、お家に保護者の方が居ない場合とか、それぞれ理由がいろいろありますので、個別にそれは違っているというところはあります。親御さんと了解の上で家に持って帰ってもらうといったようなことが基本的に話し合いの上で進んでいくようになっていますので、不登校の子どもも、それを使うと思わなければ持って帰っても使わない。

（中村委員長）
ご本人の保護者から、私がこういう推進役やってるから話をしたいということで直接来られて、状況をお聞きしたら、説明も受けてないし、子どもも２年間全くパソコンも配られていないということだったんで、それは直ぐに学校のほうと、ふれんどるーむに行かれてるということなんです、そこの関係者に聞いていただければ、直ぐに配付していただいて学習出来る状況になると思いますっていうふうに言ったら、先週直ぐ対応してくださったようです。ですから、今はちょっと安心してるんですけど、何かそういう落ちこぼれているような状況があるのであれば、まあきちっと把握されて、きちっと対応していただくほうが良いので、ちょっと危惧するところなんです。状況が把握出来てないんじゃないかと思ったので。それで、直接来られたのが何故かよく分からないんですけど。
居るはずが無いっていう状況ですかね。

（白川教育長）
いや、そんなことは申し上げておりませんけれども、ふれんどるーむに来ているお子さんにつきましては、ふれんどるーむのほうで様々な事情は承知をしておりますので、うまく持ち帰りが進んでいないというお子さんについても、そこはふれんどるーむのほうでしっかり把握は出来ていると思います。なお、今後お一人お一人をそこをチェックしていくということは、教育委員会のほうで

も出来ますので、そこはしっかりやっていきたいと思います。

（中村委員長）
まあ、よくやられてると思うということを前提で言ってるんですけど、まあちょっとそういう状況もあったので、少しご承知おきいただければいいのかなと思いました。
まあ、担任の先生や校長先生に呼び出されて直接話す機会も何回かあったみたいなので、そういう中でもそういう説明はちょっと無かったようだから、ちょっと私としては、ちょっとあれっ、どうしてこんな状況になってるのかなっていうのが本当にちょっと理解出来なかったのでお聞きしたんですけど、まあ事情はよく分かりませんが、今は先週頂いて使えるような状況になったということなので、ちょっと安心しております。
じゃあ、他に。

（上村委員）
図書館のことでちょっとお聞きをしたいんですけど、課題のところに「香美市民の登録者を増やす」っていうことがあるんですが、この下の他市町村の在住者との比率っていうのは、意味がよくあるかどうかちょっと分からないんですけど、実際のところ香美市民の登録者っていうのは、ちょっと増加しているっていうことなのか、例えば香北・物部の登録者増が課題ということは、もう言うたらほとんど、住民の数から言うたら登録者が余りいないとか、もう増えていったいないとか、そういうふうに捉えていっていいんですかね。

（山重統括官）
開館直後ほど沢山来るわけじゃないんですけれども、コンスタントに登録者は増えているんですが、図書館は一般的にそうなんですけれども、やっぱり本を非常に読む人と読まない人っていうのが今の時代くっきりしてて、読む人のほうがもう大体登録してしまった感じになってきていて、それに少し（聴取不能）してるのかな。
あと、周辺の南国市ですとか香南市、まあ南国市は今度整備しますけれども、今もうここら辺ではやっぱり香美市が立派な図書館なんですよ、本当に。だから、もうちょっとそれでいろいろ聞きつけて、わざわざ車に乗っておいでになってくださって、毎土曜・日曜日は他市の方の登録もかなり多いんです。っていう感じで、この８７対１３っていうのは比較的多いかなと。東京みたいに住居が地続きのところだったら、たまたま区境に近かったりするとこういうことは起こるんですけれども、割とこう、市街地が割と中心部に固まっているような地方の都市で、それでも車に乗って来るって、この割合ってやっぱり多いかなと。まあそれはやはり此処の近辺で、香美市の図書館は今は群を抜いて良くなったんで、その影響かと思います。だだそれは、南国市の図書館が整備された後とかはどうなるか分からないので、逆にやっぱり香美市の図書館なんで、香美市の行くことない人もいらっしゃると思うけど、そういうふうに使ってもらいたいので、そういう人にどうやってアピールをするかっていうのが大きな課題だと捉えているというところです、図書館として。

（中村委員長）

ということで、結局市外の方も結構使ってくれているけど、香北・物部のほうからはそこまでではないみたいな。

（山重統括官）
そうですね。

（上村委員）
高齢者で移動なんかも大変な方なんかもおると思うんですけど。

（山重統括官）
そのこともあるのと、香北・物部に分館を設置してますけれども、やはり規模が小さいので、やはり地域別に見ると香北、物部、山田で見ると、登録率等が香北・物部は低いですね。なんでそこはまあ、ちょっと課題と捉えてるんですけど。

（上村委員）
まあ精一杯ねえ、一応分館と言うか、閉まったところにあるところなんかも、本の返却とか諸々も凄く工夫してやってくれているので、もう是非声も掛けながらこう、もっと増やせれたらというふうに思っております。
大栃中学校はこれ出来た時に全員子どもには作ってもろうて、また見学なんかもみんなで行ったりもしましたけど、少しでも何か使えることがあったらと思って。自分も顔出した時に、大栃の子どもがお母さん、お父さんと一緒にそこで本を見ていた様子もあって、まあ此処を利用してるんだなというふうに思ったところです。
また、学校のほうからまた声を掛けていきたいと思います。ありがとうございました。

（山重統括官）
今のことに関連してですけれども、そのいう点ではサービス計画、今回パブコメにもかかっているということですけれども、とっても大事だと思います。特に重点的に充実する資料っていうところですよね。やっぱり此処のところに、産業だとか医療だとか、観光とかですね、そういう意味では従来も図書館を利用している方じゃない方をどうやって増やしていこうかっていう、此処の資料を１，０００万から１，５００万ぐらいに充実させていくっていう、正にオーテピアもそうですけどね、課題を変えていく中の、あるいはそういうことと図書館というのをどういうふうに結び付けるかっていう意味では、この計画が非常に大事だし、それが今ご質問があった新規の幅を広げるっていうんですかね、掘り下げるというんですかね、そういう期待が此処にあるようには思うんですよね。そんなふうに読ませていただきました。
まあ展示会とかですね、いろんな支所の方を含めて職員の方がいろんな工夫しながら、やっぱりその都度その都度、図書あるいは情報を届けて、此処の図書館が本当に生活に不可決なものだという、そういうことがどんどん広がりつつあるように思っておりますので、もちろん子ども達にとっても大事ですけれども、やっぱり地域にとってこの図書館というのは、非常に大事な、振興基本計

画上位置付くものじゃないかなと、こんなふうに私は理解しているつもりです。

（中村委員長）

他にございませんか。

じゃあ１点付け加えておくと、情報化の推進の問題とか図書館の問題とか不登校のの問題もそうなんですが、基本的に社会がこう激変していて、ＩＣＴが社会資本の基盤のような構造になってきて、全てそれを使うといろんなところで、３町村が合併して縦に長い構造で、中心地に新拠点の図書館が出来て、他の町が利用しにくいっていう状況で、今のデータの問題とかも言われたんですけど。まあデジタルでいろんな問題にこう対応出来る部分もあると思いますし、今の子ども達がＧＩＧＡスクールの状況で１人１台端末で高度な情報教育を今プログラミング等も学んでるんで、そういうことの利用が、延長が推進されるような状況になった暁には、彼等が成人するとまあ縦横無尽にそういうのを使って、図書館利用の構造も激変すると思うんですけど。そうだとするとやっぱり、その体制に沿ったような構造で教育とか、市民全体が使用できるようにということが含まれるべきだと思うので、その辺りのところを図書館の協議会でもお話しさせていただいて、３地区でそれなりに利用度が上がるような構造で（聴取不能）的なものをどういうふうに入れていくかとか、それを市民が利用しやすいように同時に教育を小中高からずっとやっていくとかいうことも入れて、あるいは一般市民や高齢者の方にも、スマホの使い方とかいろんなところで予約をしたり、図書館借りられるシステムが利用出来るということを享受できるような構図を作るということで、幾つかやっていただいてるんで先進的な、是非そういう取り組みを総合的に含めて、学校に来れてない子どもが図書館をｅライブラリとかで借りて、読んで学習していって、学びが止めないっていうんですかね、学校には来れなくても、そういうところが縦横無尽に香美市の場合はあるという、構造がネットワークで出来てるということは凄く重要なのかなと思いますので、是非バラバラに捉えるんではなくて、構造的に捉えていただいて、こういう課題があるというふうに認識していただいたらいいかなというふうに自分は思います。今日の議論についてですね。よろしくお願いします。

他にございませんでしょうか。

（上島委員）

ＧＩＧＡスクール等々タブレット教育なんかがこうどんどん推進していくっていうのもいいんですけど、その学力向上の部分なんかが、まだ内部評価が２っていうところもあったり、そういったところで、タブレットの活用で、まあどういうふうに実際やっているのか僕は余り見たことがないので分からないんですけど、例えば今の学校教育っていうのは、標準的な学力の向上であったりとかいう、範囲がある程度上限があって、こっから先はなかなか学べない。そっから学びたければ、どうぞ塾へ行ってくださいとかいったところで、まあ自分で別の教材を探してやるっていうような環境なのかなあっていうふうに此処は認識していて、せっかくタブレットがあるんだから、まあ此処までは学校でやるんだけど、実は上のランクの問題集であったりとか、学習の機会っていうのはタブレットにはあって、此処の段階をクリアしたら、そこの学習の扉が開けれるよっていうような、ちょっとしたチャレンジ精神をあおるような仕組みなんかがあれば、もっと突出して出来る子もおるし、そこに行きたいっていう向上心なんかも生まれてくるんじゃないかなあというふうに思うん

で、ある程度の教育の範囲があって、此処をやらなければならないっていうのも分かっているんですけど、ちょっとその上のランクっていうのも見せれる環境に来ているので、しかも簡単にこう全員に提供出来る状況は整っていると思うんで、そういったところもやっていただければ、（聴取不能）の中で等級制度があって、どんどんどんどん次、学びが出来るのが日本では出来ないので、そういったところも考えて要求していただければ、より良い教育に繋がるんじゃないかなというふうに思ってます。意見です。

（中村委員長）
ありがとうございました。これに関してですか。

（田村対策監）
上島さんのほうにご意見いただきまして本当にありがとうございます。
学力の評価を２とさせていただいているのは、数値目標が全国平均地プラス５ポイントというふうに１０年前に設定をさせていただいていたところです。その当時というのは、高知県全体、そして香美市も含めて、学力の低さということが凄くこう課題と上げられていまして、おっしゃったところでは５ポイントを目指して進んでいこうということで設定をさせていただいていたんですけれども、しっかりと学力の底上げが出来るようになってくると、全国的な傾向としましても、プラス５ポイントまでの差というものが大きく出て来なくなってきたというところが一つ要因ではあるというふうに捉えておりまして、全国的にも、香美市も含めキュッとこう、分かりますかね、学力が全体的に上がったもので、大きく差が付きにくくなってきたというところが一つ要因となっています。なかなかその基礎的な学力、そして今求められている学力に追いつかないという大きな課題があるというよりは、そういったところで今、数値がどうしてもプラス５ポイントというところを目指していた関係もありまして、２というような評価をさせていていただいているというところです。
そして、もう一つご提案をいただいています、それぞれ子に応じた学びっていうところの実施だったかと思いますけれども、まさしくそのタブレットを活用して、それぞれの子に応じた学び方、そして、底上げが必要な子どもへの支援、そして、更に高みを目指して力を付けていく子どもに合ったものにするというところにおいても、来年度から、これまでもタブレットを活用した授業研究というのもしていましたけれども、もう一歩踏み込んで、複線型の学びというところを言ってるんですけど、これまでは画一的に一斉授業の中でタブレットを使いましょう、ここまではやろうというような教師主導型の一斉授業の中でどうタブレットを使っていくかというところだったんですけれども、これからは子に応じて、どのように効果的なタブレットの活用があるのか、そしてそれを、子ども自身が必要に応じて学び方も選ぶ、そしてその学びによって子ども達が力を付けていくんだというところの研究を香美市全体で進めていきたいと思っているところでございます。
先ほど大峯のほうからもありましたけれども、令和８年度には全国大会も予定をしているというところです。そこに向かって、そういった上島さんが言われるような学びが実現し、それが提案出来るように、これからも頑張っていきたいと思っているところです。ありがとうございます。

（中村委員長）

他にありませんでしょうか。

（市原委員？）

高校の情報なんですけれども、個別体的な学習を山田高校で取り入れてまして、これ県下共通なんですけど、高等学校には「すらら」っていうアプリがあって、すららを使った学習というのが、山田高校で（聴取不能）です。単元の達成率っていうのが８割から９割ぐらいの生徒がやってるんですね。一定授業と家庭でもやっている生徒もおります。いわゆる学習状況調査っていうのがあるんですけれども、ここの改善も見られてるんですけれども、３割の生徒が学力の改善というのがなかなか図られないという課題があります。

此処に対してどういうふうに切り込んでいくか。いわゆる学びからの逃避っていうのは無いと思いますけれども、先日内容協議に学びの偽装と言うようなコラムがありましたけれども、授業は真面目に聞いているんですね。真面目に聞いているんですけれども、なかなかこう、いわゆる調査における点数に結び付かないところがあって、学びのモチベーションでいわゆる内発的動機っていうところが一定必要だということで、先生方には各教科を通してどれだけ、世の中に出た時にこの教科がお得かっていうふうな話を何回も何回も（聴取不能）して欲しい。だからそれがこの学びなんだよというふうな話をずっとしてくれっていうふうなことをお願いしているんですけども、現状としてはまだまだ、山田高校としては３割の生徒が、一定高校の基礎学力っていう面では課題にしていく実態があります。参考までです。

（中村委員長）

ありがとうございました。

探究型を取り入れて、かなり進学実績も上がってきてるみたいで、評価されてると思うんですけど。個別最適のやり方はいろいろあると思うんですが、本人をどういうふうにやる気にさせるかっていうところに今いろいろなご意見を言っていただいたと思うんですけど､そこの部分がやっぱり、うまく中学校から進学した高校で決行するっていうことが凄く重要だと思うので、一貫した教育が出来るシステムで、香美市の場合は学園都市構想って言ってるんですけど、高校も大学も揃っているっていうところが結構重要なので、その辺りのところをちょっと目を掛けていただいて、育っていただければいいのかなと思うんですけど。

他にございませんですか。

じゃあ無いようでしたら、２番目の項目の次期教育振興基本計画原案・概要版の説明を事務局のほうお願いいたします。

（中山教育次長）

次期香美市教育振興基本計画につきましては、昨年１２月２２日付で委員の皆様方にその時点の案をお送りさせていただいております。その後、本年１月１２日から２月８日の期間にパブリックコメントを募集しております。パブリックコメントを受けて修正した箇所、その他事務局の内部点検で修正した点がありまして、１２月時点の案から修正した主要な箇所につきまして担当者からご説明させていただきます。その後ご協議いただきまして、修正案の内容でよろしければ、本日提案

させていただいたものを原案としたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いします。

（事務局説明）

（中村委員長）
　ありがとうございました。それでは、ご質問、ご意見等伺いたいと思いますのでよろしくお願いします。

（福田委員）
　凄いベタな話ですけど、この概要版、カッコえいがですよ、絵とかも、こっちはダサいがですよ、なんで。こっちの絵、僕も見たらいかんのとか、凄いベタは話やけど、どうせやったらこれもカッコようと思いました。
　いや、何か意図があって変えてるんやったらあれやけど、同じこと書いちゅうがやけど、こっちのほうがずっとえいがですよ。是非こっちの、構んかったら変えてもろうたほうがいいい。

（中村委員長）
　コメント有りますか。

（大　峯）
　業者に依頼します。

（上村委員）
　もう全然、しょうもない質問構いませんか。
　この表紙の右側のイラストの上から２つ目の、何か後ろのオバケみたいなのが出てきてるんですけど、これってちょっと漫画とかそういうイメージながですか。やなせさんのアンパンは使えないので…

（　　委員）
　かみーるのキャラ。

（上村委員）
　ああ、かみーるの、なるほど。ごめんなさい。

（福田委員）
　これわざわざ香美市の漫画にしたわけよね、全部を。ということながですね。なるほど。

（中村委員長）
　（聴取不能）ちゃんは出てない？何かありましたね、キャラが。何でこっちが、こっちが出てて

もおかしくはないんだけど。キャラを何処にどういうふうに入れるかっていうのはちょっとねえ。
　他にありますか。

（　　委員）
　計画の（聴取不能）指標みたいなものはこの中にははさずに何処か別で定めるということなんでしょうか。

（大　峯）
　計画の指標については、この形になる前に体系ということで、昨年中に示させていただいた資料では記載させていただいてまして、そちらの指標についてもご審議いただいているところです。基本的にもうそこの指標を使っていくというところで、来年度、最初の教育長の挨拶でもありましたが、当然この計画の進捗っていうのを確認していくというところで、まあ進捗状況を確認するための表ですね、今回お配りしているＡ３版の資料のようなものを当然作る予定してまして、今年の７月に第１回目の推進委員会を予定してますので、その時までに、去年の段階で示させていただいてたその指標を盛り込んだ内容で資料を作らせていただいて、委員会のほうでは進行審議だったと。当然委員会の資料ということでホームページのほうにも掲載する予定ですので、その段階で公表するというところで計画をしております。

（中村委員長）
　無いようだったら、ちょっと今後の計画のこととか含めてちょっとだけお聞きをしておきたいんですけど、第５章のところで計画を推進してどういうふうに進行管理してっていうのを書いていただいているんですけど、香美市は３町村が合併して出来て、一定の年数を経た時に、５年毎の計画でどういうやっつけるかとか、１０年のうちの中間とかで、ここにも書いてあるＰＤＣＡサイクルを回して管理をしてきたっていうふうになってますけど、でもまあ、市制が出来て新しい市として教育体制を運用してきて２０年とかですね。一定のスパンをこう経た時に、５年毎のサイクルでは分からないような動きみたいなのがあるし、全体としてはどうだったのかとか。町村が合併してこういう構図を目指してたんだけど、全体としてはどうなったかっていうことを振り返るような作業も、どっかでやらないといけないのかなとちょっと思ったりもするんですね。短いサイクルでのみこう評価していることと、長期のスパンで見てどっちの方向に行くのかっていうのとちょっと違う部分もあるので、それもちょっと出来てからのことを考えると、２０年間とかっていうふうな期間を経る、今後の計画の中で丁度それが来ますよね。そうするとなんか一つ、そういうスパンを考えた上での評価みたいなのを入れる軸もちょっとあってもいいのかなというふうに思うので、先ほども言われてましたけど、大栃地区とか香北の地区にとって、全体としてはどうなのかみたいなのも、図書館の件とかも含めて、相対的な評価みたいなのがこう進んだほうがいいのかなと思うので、ちょっと何かそれを、今後の展開のところで考えておいていただけるといいのかなというふうに思いました。
　逆に言うと、短いスパンでＰＤＣＡサイクルを凄く回していくと、経営組織はいいんですけど利益を上げる為にこう動いているので、なんか保育とか教育のシステムっていうのは、ちょっとそれ

にそぐわない部分もちょっとあると思うんですね。だからむしろ、長期のスパンで見てどうかっていうようなことが、丁度市制始まって２０年とかっていうのがあるので、そういうのを少しご考慮いただけたらいいのかなというふうにちょっと思ったんですが。意見を述べさせていただきました。

他に無いようでした一応、市民の方のご意見も伺って、少し細かい文章も直していただいているので、一応委員会としてはこれで上程する、原案として承認するっていうことでよろしいでしょうか。

じゃあ、この件以外で何か関連したところでご質問、ご意見ございましたら、それを受けていきたいと思いますけど、他の件では何かございますか。

（植村委員？）

全く関係が無いって言うたらおかしいですけども、私と学校関係のもんなんですけど、今、丁度この振興基本計画の来年度からの５年間ですね、少しこう生々しい話ですけども、よく世間でも言われているように、私達が今職として位置している教職っていうところの労働市場が縮小してきている。つまり教員の不足っていう状態が今続いております。併せて当然その一つの要因として、働き方の問題とかも上げられてますけども、大量退職、大量採用っていうこの状態が１０年くらい前から、少なくとも高知県では小学校、中学校に起こっている状況です。１０年ぐらい前にちょっと私も記憶をこう呼び戻すと、１０年くらい前は丁度その制度設計、教員採用とか退職の再任用とかの制度設計の仕事に携わっていた時に、丁度１０年くらい前だったと思うんですけども、その時に試算した年度が１５年間でした。つまり今１０年目ですので、その先の１５年先を見込んでいろんな採用計画だとか、再任用なんかも含めて制度設計した記憶があります。

そしたらやっぱり、まだまだ続くんですよね、この状況が、あと７年、８年とか恐らく続いていくんじゃないでしょうか。

まあ、いろいろこういう、これは別に私たちの小学校、中学校の世界だけではないかもしれません、労働市場が縮小しているというのは。かと言ってもうこれを、どういうふうにして自分達がこの現実に抗うことがなかなか出来ない状況の中では、やはりこう与えられた資源の中で、自分達は知恵も振り絞って、いろんな方々の協力も得ながら、学校運営協議会とかいろんな地域の方とも一体となって、学校を経営していかないといけない状況になってます。

その中でやっぱり一番私達が考えているのは、もう教員の力量をどれぐらい高めていくかっていうふうなことを考えて、今こう世代交代のある中でやってるんですけども、なかなかこう苦戦しているというのが現状でございまして、こういったことが今後数年間続くという、私達にとっては教育課題として、問題として現状が目の前にある中で、この施策を推進していかないといけないというふうなことについては、自分達も決してこれは、こうだからこの指標を達成出来ないとか、そんなものは弱腰というわけではありませんけれども、そういう現状に直面しているということを前提にした施策の運用とか、実施というふうなことが図られていく、そういうったことを望みたいなということもありますし、また責任を持って自分達のこういう中で、何とかこう成果を上げていく教育内容を想像したりとか、教育育成とかですね、そういったものを取り組んでいかなければならないなというふうなことを強く感じて、いろんな会にも参加させていただいたところです。

まあ素晴らしいＧＩＧＡスクール構想とかですね、今後教育を展望していく上での素晴らしい施

策があるっていうふうなことにも希望も抱きながら、自分達もこの環境の中で頑張っていかないといけないなというふうなことをちょっとこう、自分なりに感じたところでした。

ごめんなさい。本当にもう、こんな話で申し訳ないんですけど、ちょっと自分の感想でございます。ありがとうございます。

（中村委員長）

ご意見ありがとうございました。

植村先生言ってくださったように、多分この基本計画のベースになってるのは、人口構造の激変っていうのがあって、教育の課題が変わってるんですね。ところが、それほど大きく認識してなくて、変わり映えの無いような内容で返ってくるように一見見えるんですけど。まあどういうことなのかと言うと、２０年ぐらい前に、１世帯の１年間に子どもが８，０００人生まれてた高知県が、今３，７００人になってるわけですね、去年のデータで。そのうち２，０００人が高知市で、それ以外は１，７００人しか生まれてないんですね。何処の市町村も激変してるわけです。ところが、仕事の数や、やらなければならない内容とかっていうのは全然変わってないわけですね。で、収入は激変してるし、Ａｍａｚｏｎで物を頼んでも次の日に来てたのが、最近３日とかかかるようになったりして、まあトラックで運転して運ぶ方とかも労働制限されてるような状況になってきてて、外国人がかなりそこを担ってきてるとかっていうような状況になってきてるんですけど、全然でも追い付いてないと。

大きな課題としては、子どもの数がそれだけ激変して半分以下になってるということはどういうことかと言うと、子ども達の学ぶ内容とか、社会の深度に応じて学習しなければならない領域とかっていうのは広くなってるので、そこの部分をどう担うかって言うと、まあ先生が全部を担うことは無理だから、自ら学べるような手段や措置っていうのを取って、１人１台のパソコンとかを配って、多様な学びでこう対応出来るようなシステムを作ろうとか、探究型の学習で自ら学んでくれるように、先生からの教え込みではなくて、システムを作ろうということで、そういう基本ラインに沿って、次の５年間をこう考えてるっていうようなシステムになってるんだと思うんですね。ところが、人間の頭はそんなに簡単に直ぐに切り替わらないので、旧態依然としたシステムでやってますし、ＧＩＧＡスクールで入れても、学校に行くとパソコンを使ってやっぱり教え込み型の授業が凄く多いわけですね。先生方はやっぱり、教室の（聴取不能）の感覚を持ってらっしゃいますし、いろんな人が入ってきてバラバラに学習して、子ども達が好きな方向で学べばいいっていうふうになかなか思い切れなくて、あるいは自分は使えなくても、子どもはどんどんパソコンを使ってくれればもうそれでいいんだって思い切っていただければいいんですけど、そういうふうにもなかなか思っていないところもあるんですけど、そういうのを何処かでこの５年間は吹っ切らなきゃいけない時期になってるんだと思うんですね。それを何とか維持出来る状況はもう過ぎ去ってしまっていて、去年１年間の高知県の子どもの数を見て激変って言うのは、皆さんが思っている以上に小学校や中学校が統廃合されなければ多分もたないですし、高校に至っては今の状況のままで行ったら、もうどうなってしまうんだろうと状況ですね。６割から７割が定員割れしてるとかっていうような状況で、進学校でも５年連続定員割れとかっていう状況になっていて、本当に県全体の構造とか、必要な人材をどういうふうに維持するんだろうっていうのが、一部ではこう、展望が抱けないよう

な状況のところもあると思うんですね。だからこそ香美市のような規模の教育の中ではきちっとそれを行って、展望を示せるようなシステムを作り上げることが凄く重要だと思うので、そういう意味で言うと、新しい課題にチャレンジしてるんですけど、人口構造に関しては縮小は止めることはもう無理なんですけど、やっぱり何らかの形でそれを遅らせたり、一人頭の学習量とか、その装置っていうのを多様化させることによって、何とか担えるような構造を作り出すっていうのが凄く重要で、そのことを大人も子供も意識出来るかどうかっていうことにかかってるんだと思うんですね。

出来ないと、その多様化に着いていけなくなっていって、日本は今ＧＤＰとかももうドイツに抜かれてしまってとかいろんなことを言われてますが、韓国とかに一人頭に抜かれたとか。今の状況が続いて、もし学習の規模や多様性っていうのがうまく広がっていかなければ、このまま縮小していくんだと思うんですね。でもそれに耐えられるかどうかっていうと耐えられないと思うんですね。そうするとやっぱり、耐えられるような教育、学習構造を作り出すしかないので、そこの部分はやっぱり大人がきちっと子どもに伝えていく義務があるんだと思うんですね。掘り下げて見えないようにして課題をこうごまかすと大変なことになる。少なくとも香美市の場合は、きちっと現状を把握していただいて、人口がどれぐらい少なくなっていって、市もいろんな努力をしてこういうことでやっているっていうことを分かった上で、この市の良さみたいなものを理解していただいて、大学まであることの意味とか、ここに留まってそれなりに戦えるっていうようなことをどういうふうに考えていただけるのかっていうのがあると思うんですね。

何よりもいろんな新しい多様性の学習を行うことによって、子ども達が楽しいと思うことは凄く重要なんだと思うんですけど、その課題に関してはやっぱり隠すことは出来ないので、きちっと提示することが凄く重要だと思います。市の弱点も含めてですね。だからそのことを踏まえてきちっとやらないと、まあ国政とかいろんなところではちょっと問題が起こって、日本の（聴取不能）のようなところがずっと最近出てきていますけど、やっぱりきちっと対応していくには、現状とか失敗っていうのは、子どもには考えていただくことが凄く重要なので、そのことを此処にある計画は、妨げないというところを基本にしてシステムを作ってるんだと思うんです。今言ったような基本ラインっていうのを認識した上で、これに取り組んでいくと必ず何処かで（聴取不能）出来る光明が見出せるんじゃないかというふうに思ってるので、まあ今言われたようなことに関しては、誰が考えても直ぐに人口が拡大するような路線を取ることなんてのは難しいわけなので、もう減少を食い止めつつ、学習の多様化や領域を広げることによって、どう担うかっていうことが凄く大きな課題としてあるっていうことをどういうふうに認識するかっていうことなんだと思うんですね。

それはまあ、別に幼児保育とか高等教育とか生涯学習とかに限らず、全部の領域でこう考えていかなければいけないような状況なんだと思うんですけど。

まあ、香美市は資源とか人材の面では私はそれなりに恵まれていると思うので、だからこそ逆に最初にちょっと質問したように、ＧＩＧＡで配られてないような状況っていうのが無いようにしていただければ、子ども達は自らいろんなことを考えて進んでいけるようなシステムが大分整っているんだと思うんですね。

だから是非その辺りのところを共有していただいて、課題に協働で向かっていければというふうに思ってるんですけど。その為にも先ほど言った、ちょっと長期のスパンで振り返ってみて、そのことを何処かで認識していただくような機会をちょっと入れていただけるといいのかなあというふ

うに思っています。
　済みません、私ばっかりしゃべって。他に何かご意見ございませんでしょうか。

（福田委員）
　今の言葉をちょっと、出たところで被ったんであれなんですけど。
　これってもう、これオーケーですって終わったほうがいいですよね。いや、２ページのところに計画の位置づけっていうところに実は先生が言ってることが書かれてて、まず、親としては香美市振興計画がある、そこの中で教育の話が出てき、香美市まち・ひと・しごと総合戦略があり、またその他関連の計画を何か分からんですけど、であって一連として完成してるっていうことなんだと思うんですよね。今の先生の話で行くと、これを実現、例えば上位計画としてある、香美市の振興基本計画、これ実現の為のこれなんだよっていうものが、もう少し分かりやすく此処に表現出来ると、もっと今のが腹に落ちるのかな。ちょっとずっとモヤモヤしてて、どうしようかな、ずびこんで、変えてって言うたら困るでねえと思いもって、黙って今日はおるつもりやったがやけど、先生が後で言うきほら、ほんで人のせいにしちょきます。だから、この上位計画というものの実現っていうところをちょっとこう、その為の教育であり、まち・ひと・しごと総合戦略でありっていうところが何か見えたら、もうちょっと綺麗に、腹に落ちるかなと思いました。
　感想ですので、どうこうしてとかいうことではないですけど、可能であればというところで。

（中村委員長）
　ご意見よろしいですか。じゃあ無いようでしたら、司会のほうを戻させてもらいます。

（中山教育次長）
　どうも中村先生、有難うございました。
　それでは、事務局から一つお願いでございます。委員の皆様方には令和４年４月の第１回のこの検討委員会から、長きに亘りまして次期基本計画につきまして、ご審議をいただきまして誠にありがとうございました。本日の検討結果につきまして、教育委員会に報告し、順調に行けば４月から、新しい教育振興基本計画はスタートすることになりますが、この後も引き続き進行管理を行って参りたいと考えております。この会につきましては、改めて推進委員としまして選任をした上で、７月の開催を献立しているところでございます。本日ご臨席を賜っております委員の方の中からもご依頼をさせていただきたいとこのように考えておりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。
　それでは、閉会に当たりまして副委員長、内田先生から一言ご挨拶を賜りたいと思います。お願いします。

（内田副委員長）
　今、その他のところで大変大事な議論がされておりますので、もう私から申し上げることはないんですけれども、まずはともかく第２期の振興基本計画がこのようにまとまったということで、事務局の大峯さんを初めとして、大変だったんではないかなというふうに思っております。教育長初

め事務局の皆さんに本当に感謝を申し上げたいというふうに思っております。

今日のお話を聞きながら、私は学びというものは受けることではなくて作ることなんだっていうこと、このことをこの計画は一生懸命言っているんではないかっていうふうに思うわけです。一人一人が自らの学びを作る力を付けていく、これを止めない、あるいはこれを支える為の教育計画なんだということだと思うんですよね。そういうことがこの主旨ではないかというのを改めて伺っておりました。そういうものが社会基盤にあって、危機の時代っていうものを乗り越えることが出来るんだということもこの基本計画の位置づけとして、しっかりあるんだなということを改めて感じたわけであります。

まあ計画は作って終わりでもありませんし、法律があるから作っているわけではなくて、子ども達の為、あるいは市民の皆さんの為にこれを作っているわけでありまして、あるいはその為にそれを施策として実現していくという、まだまだこれからやっていくことは沢山あるかというふうには思うんですけれども、そういうことを期待しつつ、私も何か微力ながら出来ることがありましたら、また続けさせていただきたいというふうには思っております。

終わりの挨拶ということでまとまりませんけれども、まずはこれで本日の会を終わらせていただきたいと思います。本当に皆さん、ご苦労様でございました。

（中山教育次長）

ありがとうございました。それでは、以上を持ちまして本日の検討委員会を終了いたします。